青年における親のワーク・エンゲイジメントと親子関係、「働く」イメージの関連

○設楽紗英子¹・新井邦二郎²(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科・²東京成徳大学大学院臨床心理学科)

キーワード: ワーク・エンゲイジメント, 親子関係, 仕事態度

Influence of perceived parents' work engagement on parent-adolescent relationship and working image.

Saeko SHITARA¹, Kunijiro ARAI²(¹ Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Univ. of Tsukuba, ² Graduate School of Clinical Psychology, Univ. of Tokyo Seitoku)

Key words: work engagement, parent-child relationship, work attitude

【目的】

ワーク・エンゲイジメントは就労者のポジティブな認知的・情緒的側面を描いたものであり (Schaufeli et al., 2001), 職場でのクロスオーバーや, 仕事資源と相補的に高め合う関係を持つなど, ワーク・エンゲイジメントが高い就労者は周囲の対人関係や仕事態度に対して影響力を持つことが推測される。それは職場のみならず, 家庭でもみられるものである (e.g., Bakker et al., 2005)。そして家庭の中での就労者は, 親としての役割を担うこともあり, 子どもが直接的・間接的にその仕事態度から, 仕事に関する知識を獲得する重要な存在でもある (Galinsky, 2000)。そこで, 子どもは, 親のワーク・エンゲイジメントを何らかの形で認知し, 親子関係や子どもの仕事態度にはその影響が表れているものと考えられる。

設楽・新井 (2009) は, 特に男子において, 親のワーク・エンゲイジメントの認知が, 働くことに対する高い価値観と, 自分の将来働いている姿への評価に影響することを指摘した。ただし, 親のワーク・エンゲイジメントの認知が促す親子関係や, 働くことの捉え方については未検討であった。そこで本研究では, 親のワーク・エンゲイジメント認知と親子関係との関連, それから親のワーク・エンゲイジメントと「働く」イメージとの関連を検討することを目的とする。

【方法】

対象者 大学生と専門学校生 286 名のうち, 両親について回答した 207 名 (男子 111 名, 女子 96 名) を最終的な分析対象とした。

調査時期 2009 年 9 月～2010 年 4 月

調査内容 ①親のワーク・エンゲイジメント UWES-J (Utrecht Work Engagement Scale: Schaufeli et al., 2002; 島津ら, 2007) を用い, 父親と母親それぞれについて, 仕事のへの取り組み方のイメージを尋ねた。9 項目, 7 件法で, 回答ラベルは「全くない (0) ～いつもある (6)」であった。

②親子関係 小高 (1999) の親-青年関係についての尺度か

ら, “親との対立” “親への服従” “親との情愛的絆” “一人の人間としての親” の 4 因子 (各 5 項目) を, 若原 (2003) の親子関係尺度から, “親をモデルとする” (4 項目) と “親の取り入れ” (3 項目) の 2 因子を用いた。

③「働く」イメージ 井上・小林 (1985) から, 「働く」イメージに当てはまると考えられる形容詞を 24 対抜粋し, SD 法を用いて 5 件法で回答を求めた。回答ラベルは, “A の方が当てはまる (1) ～B の方が当てはまる (5)” であった。男女別に確認の因子分析 (主因子法, プロマックス回転) を行った結果, それぞれ 3 因子が抽出された (男子: “活発” “やりがい” “関与”, 女子: “活発” “関与” “充実感”)。

【結果と考察】

親のワーク・エンゲイジメント認知を独立変数, 親子関係と「働く」イメージを従属変数とする重回帰分析を男女別に行った (Table 1, 2)。結果より, 男子では, 父親と母親のワーク・エンゲイジメントの認知は (以下, FWE と MWE と略), 両親を人生のモデルとみなすことや, 情愛的絆を感じることを促進するなど, 心理的距離を近くする働きがあり, その一方で, MWE が母親からの精神的独立も促していると理解できるだろう。MWE はまた, ポジティブな「働く」イメージも促進していた。一方, 女子では, FWE が父親を人生のモデルとしてみなすよう促し, 情緒的絆も強めるが, 同時に父親への服従も促すなど, FWE には父親に従う心理を強める働きが示唆された。逆に MWE は父親との対立や父親への服従を抑制し, 母親を人生のモデルとしてみなし同じように考え行動しようとするのを促しており, そのまた一方で, FWE が母親を一人の人間としてみることを促していた。親のワーク・エンゲイジメントが認知されるということは, 女子においても親子関係における精神的独立が促されるよう働いていると, 理解できるだろう。今後, 親の仕事態度と, 親子関係, 青年の仕事態度の関連をさらに理解するためには, 母親との関係性の意味をさらに検討していくことが必要である。

Table 1. 親のワーク・エンゲイジメント認知から親子関係に対する重回帰分析

認知された ワーク・エン ゲイジメント	父親との関係						母親との関係					
	親との対立	親への服従	親との情愛的絆	一人の人間としての親	人生のモデル	取り入れ	親との対立	親への服従	親との情愛的絆	一人の人間としての親	人生のモデル	取り入れ
男 父親	-.17	.06	.31 **	.15	.24 *	.08	-.08	.02	-.03	.14	.06	.01
子 母親	-.10	.21	.09	.15	.13	.11	-.13	.19	.28 *	.31 **	.33 **	.21
R^2	.06	.06	.14	.07	.11	.03	.04	.04	.07	.16	.13	.05
女 父親	-.10	.45 **	.37 **	.22	.30 *	.00	.04	.14	.19	.26 *	.05	.00
子 母親	-.25 *	-.27 *	.00	-.06	.20	.06	-.13	-.17	.04	-.20	.25 *	.26 *
R^2	.10	.12	.14	.04	.20	.00	.01	.02	.05	.04	.08	.07

* $p < .05$, ** $p < .01$.

Table 2. 親のワーク・エンゲイジメント認知から「働く」イメージに対する重回帰分析

認知された ワーク・エン ゲイジメント	男子の「働く」イメージ			女子の「働く」イメージ		
	活発	やりがい	関与	活発	関与	充実感
父親	-.16	.00	-.05	.02	-.06	-.06
母親	-.33 **	-.46 **	-.33 **	-.24	-.18	-.04
R^2	.19	.21	.13	.05	.05	.01

* $p < .05$, ** $p < .01$.